

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1999年3月31日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

29号

巣立ちのとき——陽光保育園の卒園児は17名。“学校に行くんだ”を励みにさまざまな課題に挑戦、仲間との共感を強め、育ち合い、充実した園生活を送ります。コマまわしに熱中し、節分には鬼に扮して行事の主役。乗馬クラブにも出かけ新しい体験を重ねます。最後の山登りは官の倉山です。お別れ遠足は3・4歳児と連れだって梅満開の森林公園で思い出づくり。卒園式で踊る荒馬の衣装も、頭作り・衣装の絞り染め・編んで・縫ってと根気よくとりくみます。文集に入れる水彩画・リズムやうたも素敵です。そんなとき——都は『民間社会福祉施設に対する補助金の再構築』(案)を発表しました。しかも4月実施というものです。福祉施設経営者、職員、利用者は驚きと不安のなか連日都議会を傍聴、審議を見守りました。民間福祉施設への職員増配置・公私格差是正などで43億円、特養老人ホームへの補助225億円減という制度の改悪・補助金カット、“削減減にあり”弱いのいじめの都政を見せつけられました。代弁者となり、子どもいじめの計画はきっぱり止めさせ、東京の保育を充実させましょう。(H・N)

公私格差是正事業「見直し」に怒り!

今から三〇年前、東京に初めて美濃部革新都政が誕生し、東京はもろろん日本国中が明るい展望を確信し、喜びにわきたちました。その後の革新都政下で、福祉、教育、医療その他各関係者は組織された要求を一つひとつ確実にし、「運動すれば要求は実現する」ことを実感したものです。特例・産休明け・障害児保育等々、数々の実現のなかで、福祉関係で最も大きかったのは「公私格差是正事業」だったのではないのでしょうか。

福祉施設職員の給与が公立、私立では、あまりにも大きな開きがあり、それに伴って同じ都民でありながら利用者の待遇にもかなりの差が生じていたのです。そのため私立の福祉施設職員の給与をせめて公立並みに引き上げようと、昭和四十六年、東京都が公立、私立の格差を是正する事業に踏み切りました。このことは福祉職員の生活の向上をはかるとともに、福祉事業全般にわたるレベルアップに大きく貢献してきました。

親子でいっしょにあそびましょう

リズム、うた、砂あそび、散歩、赤ちゃん体操など

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に、月1回、「親子でいっしょにあそびましょう」の催しを行っています。同時に、育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

- 対象 0歳児～5歳児
- 場所 陽光保育園
- 時間 午前9時～11時
- 1999年度の予定
5月12日(木) 6月4日(金)
7月8日(木) 9月8日(木)
10月19日(火) 11月17日(木)
12月13日(月) 1月14日(金)
2月16日(水) 3月8日(水)
- 参加ご希望の方は事前にご連絡下さい。3956-1068

在園父母の皆さん、卒園父母の皆さん、地域の皆さん、力を貸して下さい。東京都の暴走を食い止めたいためです。(陽光保育園職員 原芳子)

都議会予算特別委員会——3月9日(火)

予算案、付帯決議をつけて可決!

しかし、予断は許されない状況!

《付帯決議》 都議会自由民主党・都議会公明・自由民主党東京都議団・都議会民主党・無所属クラブの各会派による第一号議案 平成十一年度東京都一般会計予算に付する付帯決議案 一部

一、「民間社会福祉施設に対する補助金の再構築(案)」の実施に当たっては、東京都社会福祉協議会に参加している民間社会福祉施設の代表者等の理解を得るまでは、新制度に移行しないこと。

●日本共産党東京都議団 都予算案について組み替え動議を提案 「民間社会福祉施設に対する補助金の再構築(案)」について

- ①4月実施を強行しないこと。
- ②来年度実施を断念して、関係者と協議し、福祉水準を維持・拡充するために「案」を本格的に再検討することを求める。

生活者ネットワーク東京都議団

●4月1日実施はあまりにも乱暴である。合意までに少なくとも一年以上必要である。
●福祉はまず人が中心。コミュニティワークである。経営が中心となると人件費削減につながり、福祉切り捨てといわれかねない。

▲3月12日、心障センター幼児教室の子どもたちを迎え、かもしんちゃん(5歳児)と記念撮影。荒馬踊りを披露して歓迎しました



◎ひまわり募金ありがとうございます

(1998.7.16～99.3.15) / 敬称略・順不同

- 個人 三輪愛子・今井茂子・逢田光雄・大原久美子・高久ますみ 津田良輔・三吉公介・大塚幸江・内海晶子・佐藤秀巳・飯塚まさみ 霜田浩明・森 淳子・内田真代・東福啓治・田中忠道・中込由美子 菅井政代・竹内后代・徳永 誠・鈴木富佐・星野 紀・近藤スミ江 渡辺道也・上野悦子・佐々木昭市
- 団体 パールジュエリー美登里・陽光保育園後援会(チャリティ)

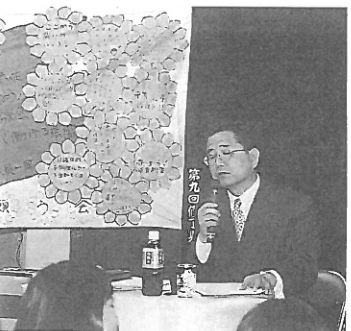
みなさまのおこしをお待ちしています

◆お花見
日時 4月4日(日) 11時
場所 城北公園・茂呂遺跡そば
恒例のバーベキューをします。血・カップ、箸をご持参ください。
◆陽光保育園後援会99年度総会
日時 5月29日(土) 18時30分
場所 陽光保育園ホール
陽光保育園卒園児による演奏会 後援会を行います。乞ひ期待!
主催 陽光保育園後援会

◆夏のバザー
日時 7月4日(日) 10時～14時
場所 陽光保育園
◆陽光保育園創立50周年記念事業
9月の日曜日を予定。楽しい催しを企画中です。実行委員大募集!
主催 陽光保育園

元気が明るく “さよならパーティー”
とき 7月7日(水) 夕方7時～9時
会場 陽光保育園ホール 会費無料
おいしいもの一品もちより “誘い合って”ご参加ください”

陽光保育園 子どものしあわせを願う会 13年間の活動を終え解散へ!
青空共同保育から出発した陽光保育園の運営委員会を引き継いで一九八三年に設立された「子どものしあわせを願う会」。以来、理事・職員・父母の三者が民主的に協議し、地域の父々と協力をし、子どもの生活環境を向上させる運動を目的に活動しました。公園のこと、アレルギーの子どものこと、ジャブ池のことを区に要望したり、映画会、共済講座、学習会、いっしょにあそびましょうなどの企画をさまざまに実施してきましたが、保育園をとりまく情勢の変化のなかで、保育園は父母の会、理事会、職員は、それぞれ主体的に活動を強め、必要に応じて連帯することを約束しての解散です。



2月13日、共済講座「素敵にコミュニケーション」では、講師の村瀬幸治さんのお話、参加者全員ひきこまれました

子どもと食事

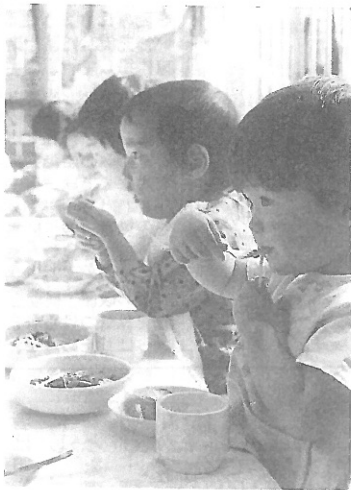
健康な心と身体のために

◎食事と文化

本来、人間が食物を「食べる」のは、「身体の栄養」を摂るためだけでした。それがしだいに、みんなで会話を楽しみながら食卓を飾るなど、「心の栄養」、つまり文化的な要素をもつようになりました。

子ども時代の思い出のひとつに、夕食の時間があります。かつて、日本の家庭では、夕食の時間は一家団欒の場でもありました。その時間にはみんなが帰ってきて食卓を囲む、それが家庭であり、ひとつの文化の原点のようなものでした。

ところが現代では、「食べられさえすればなんでもいい」とか「栄養をとるためだけ」「太りたくないの、ほんのすこしだけ」、あるいは「ひとり食べ」など、文化どころかエサ的になりつつあります。



◎お腹がすくとうとういっしょ

赤ちゃんのころは「お腹がすいた」と泣くと、お母さんがおっぱいを飲ませてくれ、「お腹がいっぱい」と眠る。そのくり返しのなかで子どもは、空腹感、満腹感を体験し、身につけていきます。そして大きくなるにしたがって、食事の時間が決まってきました。

しかし、このころは、食事の時間になっても「まだお腹がすかない」という子どもをよく見かけます。お腹がすいたという感覚がないのです。もう少しで食事の時間になるのに、親が何かちょっと与えてしまう。そのために十分に空腹感を感じることがなくなってしまうのです。ふつうは、朝七時に朝食、昼は十二時に昼食、夜は六時に夕食というリズムがあれば、その時間がくると自然にお腹がすくものなのです。

病院で診察をうけると「食欲はありますか」と聞かれることがありますが、人間の基本的な欲求があるかないかで健康状態が推し測れるからでしょう。空腹感や満腹感は、私たちが大人が体験のなかで子どもに学習させていかねばならないことなのです。

◎食事への関心

食事は本来、楽しいものではなく、食事を楽しむためには、大人でも子どもでも食事に関心が必要になります。

子どもが食事に関心をもつと、「これ、どうやって作ったの？」と聞いてきます。あるいは「きょうは暑かったから〇〇が食べた」とか「テレビの番組で作っていた××はおいしそうだから、お母さん作って」などといった会話もでてくるでしょう。こういうふうに関心をもつことはとても大切です。そのために空腹感を十分に感じさせてあげたいものです。

◎家族で囲む食卓

夕食を家族そろって食べると、子どもはその日にあったこと、楽しかったことや悔しかったことなどを話し、その姿を見て、親も一日の疲れがいやされたりということがあります。

しかし、企業戦士のお父さんは、毎日残業で帰りが遅く、帰ってきても疲れすぎていて、子どもの話を聞く心の余裕すらありません。せめて週に一回でも家族みんなで食卓を囲めるよう、努力してほしいと思います。

私たちは幼いころ、食卓を囲みながら、「この野菜は今が一番おいしいのよ」とか「この魚は北の海に住んでいるのよ」など、食文化の一端を教わり、知らず知らずのうちに身につけてきました。農家の人の大変さを知ったのも、そういった話のなかででした。

いまは、スーパーマーケットに行けば、一年中いろいろなものが棚に並んでいて、毎日、いろいろな公園に行ったり、泥だらけになって遊んだり、子どもらしくのびのびと遊んでいるようで、つくづく入園できて良かったと思ってきました。沙恵も今までの分を取り戻したかのように遊んでいるようです。

これからも、元気に過ごしてほしいなと思っております。(3歳児・沙恵、1歳児・元士の母 鈴木久美子)



ここ数年、不登校児や高校中退者の増加、凶悪犯罪の低年齢化などが社会問題となっています。いったいどうなってしまったのでしょうか。子どもたちは大人に何を訴えたいのでしょうか。

◎健康な心と身体のために

受験戦争、窮屈な学校、限らない遊びの誘惑。いまの日本の状況は、子どもたちが育つ環境として決してよいものとはいえません。子どもが「自分を大切に力強く育つ」ためには、健康な心と身体をつくるのができるよう、手助けしてあげるのが大人の役目です。

人間関係をつくっていくうえで、食はとても便利なものです。親子で調理すれば楽しいし、自分のつくったものを喜んで食べてもらえれば、それ以上にうれしいものです。食を通して人と人との関係も豊かになるのです。食は文化の原点といえるものです。いつでも何でも手に入りやすい時代だからこそ、食をとおして文化を育み、楽しい人生を送るための工夫をしてほしいと思います。

☆ひまわり募金ありがとうございました

- (98年3・15・7・15/敬称略・順不同) 小泉 翠/小片桂子/須藤 雅/石塚かよ子 北村幸子/福山成子/今井芳子/小島八重子 石川富代/星野 健/吉村敏夫/中島ミツ子 狩野 寛/山田靖子/工藤淳子/那須紀伊子 白柳守康・朱美/伊東治広・靖子



月に一度はハイキング

あきらとさとしは二卵性双生児で、あきらが四度、さとしが三度の知的障害児です。今のところ、あきは単語をしゃべる程度で、さとしはまったく言葉を発しません。また二人ともアトピー性皮膚炎で、特にあきは夜二、三回はかゆくて起きています。さとしには睡眠障害もあるようで、寝付くのは十一時頃、朝起きるのは五時頃です。この二人と四歳年上の長女の面倒を妻がみています。私は百貨店勤め土日はほとんど休めませんし、勤務時間が長いので、子どもの面倒をなかなかみられません。でも本日はそれを口実に、手抜きをしているのだと反省しています。

二人の知的障害については、診断が下った直後に本を読んでみましたが、何をしたら治るといった代物ではなく、ただひたすら、いずれは成長してくれることを信じて、療育を続けることしか対処する方法がないことがわかりました。さとしは、二十歳までに六歳の子ができることがマスターできればよいと、医者からは言われています。あきらについては、中学までは普通学級に通えればと願っています。

さて前述のように出来ない父親ですが、休みの日にはできるだけ外出するように心がけています。さとしはつい最近、外でトイレができるようになりましたし、パニックを起こしても、以前よりは短時間で立ち直るようになりました。今年の一番大きな目標は、夏休みに伊豆へ行くことです。また、さとしにはハイキングが特によいと言われているので、月に一度はハイキングをしたいと思います。あきはともかくさとしは、生きている限り面倒をみてゆくと肝に銘じておりますが、今のところ実感としては、あまり感じていません。長丁場の子育てとみて、一日一日を無事に乗り越え、子どもの将来が少しでもよくなるように頑張りたいと思っています。

(6歳児あきら・さとしの父 竹内 恵)

●陽光保育園後援会の行事

夏の交流会は今年も鶴原の海へ

5月23日、陽光保育園後援会98年度総会が開かれました。第一部のミニコンサートは、卒園児父母の白柳さんご夫妻のリューとピアノのデュエット。素敵な音色に、しばし聴き入りました。第二部総会はスムーズに議事進行し、今年もマルセ太郎のチャリティ公演を行うことが決まりました。

8月1日・2日、一泊二日で今年もうなばら荘に宿泊。お天気に恵まれ、二日ともしっかり海水浴を楽しめました。参加者は大人15名、子ども21名(乳幼児8名、小中学生13名)でした。



投稿 いま思うこと

保育園に入園できてよかった

保育園に入園できて良かったこと、それは、なんといっても沙恵(3歳児)とんぼ組 自身、毎日思いっきり遊べるようになったことです。

家には、心臓の悪い姉がいて、入退院を繰り返してきます。その姉を中心に家がまわっているために、沙恵は忙しくなると田舎のおばあちゃんの家へ預けられたり、姉の感染症をさけて、人込みには出られず、家の中で生活することがほとんどでした。

沙恵は健康な身体なのだから、毎日のびのびと遊ばせてあげたいと思ひ、弟とともに、この四月から保育園に預けることにしました。

保育園では、毎日、いろいろな公園に行ったり、泥だらけになって遊んだり、子どもらしくのびのびと遊んでいるようで、つくづく入園できて良かったと思ってきました。沙恵も今までの分を取り戻したかのように遊んでいるようです。

これからも、元気に過ごしてほしいなと思っております。(3歳児・沙恵、1歳児・元士の母 鈴木久美子)